

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372300857		
法人名	株式会社 スエトミ		
事業所名	グループホーム ドリームまつばせ 西棟		
所在地	宇城市松橋町松橋1619-1		
自己評価作成日	平成28年3月14日	評価結果市町村受理日	平成28年5月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	平成28年3月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設13年を迎えスタッフもキャリアを積んできたことにより、ケアの質の向上に繋がっていると感じている。資格取得者もスタッフの半分を占めるほどになった。明るく、笑顔のある、楽しんで穏やかな生活の支援に努めている。季節ごとの行事が充実できるよう、またご利用者様一人ひとりが満足できるように細かいところまで目配りできるように努めている。出来る力や今を大切にし本人様の希望がかなうようにスタッフで支援している。高齢の利用者様が増えているがスタッフ協力しその人らしい生活の確保に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

* 入居者の自由な過ごし方を大切に、季節の食材で職員が作る家庭的な料理と手作りおやつで入居者の健康に配慮した暮らしを支援している。毎年、3回実施される日帰り旅行では、経営者・職員と一緒に道の駅・天草・工芸館等に出かけ、買い物・温泉・作品作り・外食等を楽しんでおり、入居者・職員共に表情が明るい。
* 理念の一つに「チームワーク」が掲げられている。訪問調査日の聞き取りでは、「意見が言いやすい」「作業を前倒しでしてくれる職員がいる」「仕事が楽しい」等の声が多く、働きやすい職場づくりへの配慮が窺えた。障がい者雇用のスタッフが生き活きと食事介助している様子も観察された。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	五つの理念を提示し、職員全員が認識し共有実践につなげている。	自立支援・寄り添うケア・チームワーク・環境整備・地域密着の5項目をホームの運営理念としている。洗濯物たたみ・野菜の皮むきなど、出来ることを大切に、好きなテレビを見たり、庭の花植え・草むしりをしたり、のんびり家庭的な暮らしの継続が支援されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学校からの体験訪問受け入れ、雑巾贈呈、散歩時の挨拶や、夏祭りの交流の場の提供等にて近隣との交流を行っている。	ホームが敷地内で開催する夏祭りには、老人会・子供会等を通して案内を出し、住民に参加を呼び掛けている。金魚すくい・かき氷・焼き鳥を出したり、手作りのお化け屋敷も設置して、入居者・職員・地域の人々が交流する楽しい機会となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて入居者の状況や出来事、支援内容について活動報告することで展開し進めています。又今年度は近隣住民の方へ向け認知症サポーター養成講座を開催しました。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回行い、毎回活動報告などすると共に様々な取り組みについても意見交換を行いサービス向上に努めている。	27年度に隣接して開設した「まごころ」と一緒に会議を開催し、市高齢福祉課・包括支援センター・区長・老人会長・民生委員・家族代表・利用者代表の参加を得ている。其々のホームにおける活動報告の他、「高齢者の脱水について」「包括支援センターの業務」「グループホームでの食事」等テーマを決めて発表し、専門職として情報提供を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者は毎月の報告実施、又担当者の方から入居者さまの現状について意見や質問を求められた時は、正確な内容を提供し協力関係を築いています。	運営推進会議に高齢福祉課から参加を得ており、ホームの活動や入居者の暮らしぶり等について理解を得ている。また、毎年、外部評価結果も提出しており、現状の把握が得られているものと思われる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	市が開催する研修「グループホームの身体拘束・虐待を考える」で研修し職員は身体拘束について理解したうえで抑制や拘束をしないケアに取り組んでいる。共有スペースを活用した見守りなどケアの工夫をしている。	市が開催した「身体拘束・虐待を考える」研修に各ユニットから3名が参加し、研修後は、ミーティングで報告し、他のスタッフとの共有に努めている。	外部研修に限らず、グループホーム職員に必要な研修項目について年間研修計画を作成し、内部研修会を実施し、全職員の質を高める機会があると更に良いと思われる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内勉強会を実施し理解を深め情報交換を行うことで虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は市の研修会等へ参加し理解を深めて活用できるように備えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約のときはホームの内、外を見て頂いて、契約時書類説明して不安のない様、質問を受け納得を得ている。又ホーム内、外の見学にて安心して頂くように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に意見箱を設けている。面会時や事業所の行事参加時に家族からの意見や要望を聞いている。出た意見は申し送りノートやミーティングで報告し全職員で共有している。	職員は、面会時・ケアプラン作成時等に要望・意見を聞き取ることを心掛けている。希望が出された際は、個別ケアプランに組み入れる等で要望に沿うことに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングで積極的に意見を求めると共に日頃から連絡ノートや口頭での報告、連絡、相談を密にするように努めている。	ユニット毎に毎月1回ミーティングを実施している。経営者側から、行事予定・施設設備等について説明があった後、スタッフが気づき・課題を話し合う時間としている。訪問調査日の職員面接では、「意見が言い易く、楽しい」との発言が多く聞かれた。明るい職場環境となっていることが窺がえた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者による評価、人事考課、面談にて賞与等へ、努力評価反映している。又資格取得による手当を支給もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地区の研修、勉強会への参加提供し、スキルアップを図っている。内容についてはミーティング内発表にて情報共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームの勉強会等で情報交換し交流を持っている。さらに同業者との親睦を深めるため、ミニバレー大会のレクエーションに参加し交流を図った。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際に入居前のケアマネージャーさんから情報を得たり、ご本人より入居にあたり不安なこと希望等をお聞きし、新しい環境の中で安心して生活出来る様、寄り添いながら支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に関しては、家族がどのような事で困られていたか、サービスに対する不安に耳を傾けホームで出来る事、家族に協力して貰うことを明確にしておく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム以外のサービスとして訪問看護を月2回健康管理として対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理、掃除、洗濯物たたみ、ゴミ出し等の家事作業を職員と共に参加して頂き、日々の暮らしを実感出来るようバランスに配慮しつつ支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族来訪時には本人様とゆっくり過ごせる時間を大切にし日々の様子や体調などお伝えするように努めている。又、夏祭りやクリスマス会などの行事はご家族へホームの新聞や案内状にてお知らせしご協力を仰ぐと共に一緒に食事等で絆を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お友達や馴染みの方の来訪の際はゆっくりお話しが出来るよう環境整備に努めている。又、ご家族様協力のもと墓参りや仏事などに出席して頂いている。	自宅のご近所だった人や、姉妹などが、来ホームの際は、心行くまでゆっくりと過ごせるように配慮したり、希望が訴えられた際は、スタッフが同行して親族の家を訪問したり、馴染みの関係継続支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや塗り絵などの気分転換の時間も設けている。利用者様間でトラブルになりそうな時は必要に応じて仲裁、見守りをするように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所ご通夜や葬儀に出席したり、転院後もお見舞、挨拶に行き、良好な関係を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望があった時は寄り添い傾聴しスタッフ間で共有、検討しご本人の意向に添えるように努めている。	デパートで開催される「北海道展に行きたい」「ドライブに行きたい」等の要望には、ホーム長以下職員が日程・段取りをして意向に沿うように努めている。また、発語が容易でない人は、細やかな観察に努め思いの把握に努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時はご家族やケアマネから情報を頂いたり、日頃の本人様との会話の中で生活歴等を詳しく把握し、その人らしい暮らし継続が出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ゆっくり居室で過ごされる方、勉強されている方の時間を大切に、思い思いの時間を持つよう心掛けている。又、相談等あられる時はしっかり傾聴している。又、日々の記録や本人様の表情などから心身状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のミーティングでカンファレンスを全職員で行い、利用者のケアの内容について情報交換、検討している。	入居時は、「らしきシート」を活用し、入居者の習慣や現状・必要なサポート・注意すること等を把握し、健康状態・ADL・コミュニケーション能力等を分析して、本人・家族の要望を取り入れたケアプランを作成している。プランは6か月ごとの見直しとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の詳しい言動やそれに対する職員の対応を個別記録に記入し、朝・夕の申し送りに活用しカンファレンスや介護計画に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族や本人から要望があれば外出や買い物等柔軟に対応している。又、年3回(2月・6月・10月)の日帰り旅行の行事や花見の外出支援の充実に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2か月に1回開催している運営推進会議では利用者を代表して1名の方に参加してもらい会議の場で自ら語って頂いている。又、町内のゴミ拾いに参加したり、小学校への手縫いの雑巾を寄与するために作業し力を発揮して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は個々の希望を大切にしかかりつけ医に受診し適切な医療を受けられるよう支援すると共に毎月委託医にて健康管理を行っている。	精神科・眼科等の専門医受診は、家族の同行での対応とし、その他は協力医による定期的な往診で健康管理を行っている。緊急時は、医師の指示で、宇城総合病院への搬送としている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の訪問看護の際、個々の利用者の様子や体調を報告し、アドバイスを頂いている。又、職場内の看護職に相談し適切なケアが出来るよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との情報交換にて良い方向に務める共に本人、家族との話し合い、入院による機能低下等見られる場合は早期に以前の生活に戻れるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	疾病やターミナルについては方向性を家族と話し合いながら訪問看護、かかりつけ医、家族と連携を図りながら日常生活全般をスタッフで支援している。	入居時に「ターミナルケア説明書」を使用してホームで出来る対応について説明を行い、希望に沿っての対応としている。状態が悪化した際は、協力医の指示のもと、24時間対応の訪問看護と協力し支援している。看取り後は、職員間で話し合い、振り返る機会を大切にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡先や方法を把握し急変や事故発生時は応急手当てや早期対応を行い、日頃より定期的実践力を身につけるよう訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練で一部は入居者とスタッフでの戸外までの避難を行い、二部は消防士の方の指導でスタッフは消火器の使用体験を受けている。又、スプリンクラーの定期的な点検もして頂いている。	消防計画書を作成し、年に2回入居者も参加した避難訓練を実施している。緊急連絡用ボタン・スプリンクラーが整備され、職員の連絡網も整備されている。	隣接して「まごころ」が開設したことにより、3ユニット、27人の入居者が暮らしている。法人全体・入居者・近隣住民・地域消防団・消防署等との連携を総合的に見直し、災害に備える計画と訓練を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人の生活や人生を否定せず出来ない事を支援し、自己決定の尊重に心掛けている。	他の入居者と一緒に行動したい、一人で過ごす時間と空間が好き、晩酌とタバコは続けたい等々、その人らしさを尊重し、職員は、否定的な言葉を慎むことを心がけた支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物やドライブ等の希望時には一緒に出掛けている。又、入浴の順番など希望される方には意向を尊重し支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室で過ごされている方や他者とおしゃべりしたりTVを見たり、散歩したりと思いついたら自分のペースで過ごされている。利用者のペースを大切にその人らしい暮らしの継続が出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身体を清潔に爪切り、整髪、服装等に心掛け、必要時化粧水、クリーム等の提供を行っている。髪染めを希望される方には支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理では利用者様と一緒に食材の皮むきや食材切りを行い、食後には下膳や食器拭き等それぞれの持てる力を振舞って頂いている。又、咀嚼機能を把握し食事形状に工夫を取り入れ、食事を楽しく安心して食べて頂くよう心掛けている。	毎午後、入居者と職員と一緒にスーパーに出かけ、食材を購入することが、日常的な楽しみとなっている。職員の手作りの料理・おやつを、入居者と職員がおしゃべりしながら食べている様子は、賑やかな大所帯の食事風景となっている。年に3回実施される日帰り旅行では外食も楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食欲、摂取量の記録と共に観察事項を記録し、食欲不振等はその原因を考え対策を立てる。又、必要時栄養補助食品など使用している。(アインカル・エンシュア)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の口腔状態や力に応じた口腔ケアを行い、夜間は義歯を外し洗浄剤投入し清潔を心掛けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用することで排泄パターンを把握し、本人の動作、言葉からサインを見逃さないようにトイレ誘導を行っている。自力排泄の利用者の方にはトイレでの排泄を習慣としスムーズに行えるよう支援しオムツ削減に努めている。	日々の個人記録に排便の状況を記録し、健康状況把握の一つとしている。また、一人ひとりの態度・行動を注意して観察することで、適切なトイレ誘導を行い、快適な排泄の支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩、ラジオ体操の提供や食物繊維を多く含むきのこ類、海藻、果物などの食品を積極的に食事に取り入れたり、毎日欠かさず乳飲料の提供やこまめな水分補給を行っている。薬に頼らず自然排便が出来るように腹部マッサージなど施行している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の希望やタイミング、又体調や気分に合わせて入浴支援を行っている。時には利用者希望で二人で楽しく入浴が出来るよう支援している。それぞれの拘りを汲み取り個々に合わせた支援を心掛けている。	1日おきの入浴を基本としている。浴槽に入らずシャワー浴の場合は、同時に足浴を行うことで、より気持ち良い入浴となるよう支援している。ゆず湯・菖蒲湯で季節を味わったり、日帰り外出の際は温泉に入ることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人自身で体調を考えておられる方はその方の生活習慣に合わせ見守り、過去の病歴や高血圧等を考慮し、散歩や作業の手伝い等の後は声掛けを行い本人のペースで休んで頂くよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に使用している薬の目的や用法についてはスタッフ全員が薬説明書に目を通し把握するようにしている。服薬時は必ず日付と氏名を確認したうえで本人に手渡し、確実に服薬出来るよう見守り支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗い、ゴミ出し、買い物への同行など各利用者様の得意分野を把握し支援を行っている。又散歩や塗り絵などのレクリエーションを取り入れ利用者様同士の関係やスタッフとの関わりを大切に気分転換が出来るように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、ドライブ、買い物同行の日常的な外出支援に努めている。又ドライブでは行き先の希望を伺い、ドライブ先のお店での買い物をして頂き、楽しみを持って出掛けられるように支援している。	スーパーに食材購入・気分転換に道の駅までドライブ、季節ごとの初詣・お花見、また、年に3回実施される日帰り旅行等、外出する機会を多く設けている。入浴日ではない日は、ふらりとドライブに出かけることも多く、経営者・ホーム長の外出を支援する姿勢に、職員も一緒に楽しんでいる様子が伺えた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日帰り旅行などにお遣いとしてお渡しし自由に買い物して頂いている。又希望される方には預かり金の中から月1回お小遣いとして5千円お渡しし必要な物を自由に買物が出来るよう支援している。購入時には出納帳へ記入しご本人も日記に記帳されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人自ら電話をされたりは無いが希望があれば取り次いでいる。又、遠方のご家族より定期的に手紙が届く方には返事を書いて頂くようハガキ等を提供している。今年は4名の方がご家族宛てに直筆で年賀状を出された。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には入居者の方が生けられた季節の花が飾られフロアー装飾には写真を提示したり四季に応じて貼り絵、ぬり絵、書道などの作品を展示し季節感を採り入れている。又、快適に過ごして頂けるよう照明は適度な明るさを保ち、冬場は加湿器を使用し温度、湿度に配慮している。	リビングには季節の花を活け、入居者の作品や行事の写真等を飾っている。東棟は、ゆっくりしたリビングに9人がそれぞれの居心地良さのスペースを確保し、西棟は、少々手狭なリビングで、自分なりの居場所で周りの人々とコミュニケーションを楽しんでいる様子が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	馴染みの方と一緒にTVを見たり、テーブル囲んで新聞折りを手伝ったり、一人でゆっくり過ごされる方へは自室にて休息出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居の際、慣れ親しんでこられた家具をご家族から用意して頂き、自宅にいるような気持ちで過ごして頂ける様にしている。又、居室には娘様やお孫さまの写真も飾って頂いている。	グリーンを基調にした心地良さそうな部屋・仏壇に写真が飾られた部屋・ベッドと整理箱だけのシンプルな部屋、入居者と家族の思い・個性を大切にしたい部屋作りとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お風呂やトイレは認識しやすいように明示してある。手すりが必要な所には設置してあり、安全に生活できるように配慮してある。居室にも本人様の写真や名前をドアに提示している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372300857		
法人名	株式会社 スエトミ		
事業所名	グループホーム ドリームまつばせ 東棟		
所在地	宇城市松橋町松橋1619-1		
自己評価作成日	平成28年3月12日	評価結果市町村受理日	平成28年5月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本県熊本市水前寺6丁目41-5
訪問調査日	平成28年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設13年を迎えスタッフもキャリアを積んできたことにより、ケアの質の向上に繋がっていると感じている。資格取得者もスタッフの半分を占めるほどになった。明るく、笑顔のある、楽しんで穏やかな生活の支援に努めている。季節ごとの行事が充実できるよう、またご利用者様一人ひとりが満足できるように細かいところまで目配りできるように努めている。出来る力や今を大切にし本人様の希望がかなうようにスタッフで支援している。高齢の利用者様が増えているがスタッフ協力しその人らしい生活の確保に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ一同理念の確認、あり方をふまえ安心される生活ができるようつなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年間を通しての行事などで、地域の交流、家族様との交流を行っている。散歩時の地域の方との交流もある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて認知症の人のその人に対する支援のあり方など踏まえ話しを行い理解と支援の方法を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の会議時活動報告を行っている。1つ議題を決め、意見交換などすることで得ることがある。地域の情報交換。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者は毎月の報告実施、又担当者の方から入居者さまの現状について意見や質問を求められた時は、正確な内容を提供し協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフにて連携図り、利用者様の状況に応じ対応と玄関の施錠など無い支援が出来るようにケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会への参加やホームミーティング勉強会で理解を深め払うことで防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者含め他のスタッフも研修などに参加し学び、活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約のときはホームの内、外を見て頂いて、契約時書類説明して不安のない様、質問を受け納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて家族様からの意見を聞く等の時間を設けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフの時間帯も違う入居者の方との対応、役割の仕事しながら気づく点も多く習うことも多々ある。その都度のまとめを意見交換する大事な時間がミーティングだと思う。小さなことでも話し合えるようにしたい。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護雇用改善チェックDOを無記名で従業者全員に試行し、事業所の改善を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には交替で参加して頂く。又自分から参加される方も多くミーティングで発表して頂いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームの勉強会等で情報交換し交流を持っている。さらに同業者との親睦をぐかめるため、ミニバレー大会のレクエーションに参加し交流を図った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時ケアマネや家族の方から情報を得たり本人より不安なこと、希望を聞き、新しい環境の中で安心して生活できるよう寄り添いながら支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に関しては、家族がどのような事で困られていたか、サービスに対する不安に耳を傾けホームで出来る事、家族に協力して貰うことを明確にしておく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム以外のサービスとして訪問看護を週に一回健康管理として対応している。希望される利用者に週に1回、訪問歯科も提供されている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃の家事作業やレクリエーションを通して、得意分野やで力を発揮出来るように支援している。日常生活と同様に行っている。一部の入居者の方は役割意識を持ち意欲的に家事作業をされている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方々とも出来るだけコミュニケーションが取れるように努め、日頃の様子を詳しく話すように心掛けている。来訪時は体調や生活状況を報告し、毎月の新聞で皆様の様子を写真入りで報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様のご家族やなじみの方たちが来訪された際は、ゆっくり話せる場を設けている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士で会話や活動している時は見守りに対応し、入居者間でトラブルになりそうな時はスタッフが間に入り、関係が円滑に行えるように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者様を最後までお世話できるように心掛けご家族の相談やご希望に沿えるように努めている。退所後などご家族様との会話など見られる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人に合った支援とその人に必要な対応と自分が求めたい支援を相手にもしてあげたい。それが家族も分かって安心しますとの声が聞かれる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各利用者の日常の状態を常に観察し、以前の暮らしぶりや意向を考慮し、モニタリングを行い、適切なサービスが提供できるように調節を繰り返しながら努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人ひとりの出来ること、困っていることの把握に努め、日々の心身状態、有する力などを見極めと共に、機能低下に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画にあたっては、利用者の日々の暮らし方やご家族の意見や思い、必要な関係者と話し合いを行い、作成にあたっている。介護計画の説明時にご家族の思いを必ず聞くように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各利用者の日々の状態を各ファイルに記載し、共に職員間での連携を図り、早期改善、対応が出来るようにしている、又モニタリング、介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	四季折々に行事を行い、各位様が楽しんで頂けるように支援している。正月初詣、梅の花見、花見、夏祭り、敬老会行事、運動会見学、クリスマス会等柔軟な支援のサービスに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に運営推進会議や地元の小学生との交流を開いている。キャラバンメイトを通して地元の方々にホームのあり方を共有して頂いた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	急変時や往診時等、ご家族に連絡し、納得された上で受診して頂いている。24時間対応の訪問看護も行ってたことがあり、主治医、看護師、介護との連携にて対応を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特変があった場合は、ホームの看護師を連携を図ると共に月2回の訪問看護で利用者様の状態報告をし、助言を受け指導して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご本人が場所が変わった事で不安にならない様に、社長、ホーム長、職員が交代でお見舞いに行き安心して過ごせるように支援を行っている。ご家族と病院側と連携し早期退院できるように努めている。退院時など利用者様にあった支援をスタッフで話し合うことも行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルを希望されるご家族に対しては希望に添えるように、最後まで看取れるよう、スタッフ全員で話し合い支援している。ご家族も大変喜ばれていた。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時、初期対応は職員の格差はあるものの、その場にいる職員やホーム長と連絡を取り合い緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に一度は避難訓練をし、定期的な点検をして頂いている。消防署や地域住民との連携を図り協力体制を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の言葉や行動に否定したことを言わないように心掛けスタッフ間でも安心感を持って頂く言葉掛けに努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべくご本人が自己決定できる環境つくりと、自己決定不可能な方より家族への希望や自分が思ってる言葉が聞かれたら代弁して説明している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしく過ごして頂けるように日々の生活の中でコミュニケーション交えながら支援行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	モーニングケア時や入浴後など洋服や髪の毛のセットなど気にされる時など談話し支援行うことでとても笑顔見られ一日を楽しく感じておられるように感じられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者とスタッフが一緒に食事を摂っている。楽しい食事ができる様に会話をたのしみながら支援行う。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	季節に応じ水分量が不足していると思うこともあり、スタッフでの連携に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの必要性を理解し、声かけと介助の方へは十分に支援するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンのリズムを把握しトイレの誘導を行っている。落ち着かれない時なども誘導行う。オムツやパットの経費削減の努力をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜の摂取や特に根菜類に努めている。又飲み物を体調に合わせて変えている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の気持ちを汲み取り、笑顔にて声掛けを行い、自ら入りたいと思うような支援を行っている。ご自分で出されることは、極力手を出さずに衣類着脱、洗身、洗髪して頂く。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、畳の上で過ごして頂いたり、傾眠されている方には、声かけして居室で少し横になって頂く。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用については薬説明書に目を通すようにスタッフでの連携図り、薬の変更があった時は引継ぎ簿などに記入し対応に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様一人一人の喜びのある日々が過ごせるように、その人に合った支援を行っている。一日に笑顔が沢山見られるように心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	車椅子や杖を持参し、疲れられた際に対応できる様支援しています。全員参加出切る様、数回に分けて支援行っている。買い物も毎日同行して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の力に応じ、ご家族が小遣いとして渡しておられ、日帰り旅行やドライブ、買い物同行時に本人様が欲しいもの、必要なものを自由に購入しておられる。持って折られるお小遣いの残金を考えながら節約し使っておられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話要求があれば取り次ぎして会話して頂く、手紙も書かれたら必要な所は支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアー装飾には、季節時に応じて写真を提示したり、毎月の新聞便りを提示したりして四季を味わって頂いている。照明は適度な明るさを保ち快適に過ごして頂く。転倒を防ぐため、不要なものは行いように心掛けている。季節の花も玄関に飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの意思を尊重し、見守りにて対応行っている。一人で過ごされる事を希望される利用者様に関しては、孤立されないように、スタッフとの会話等で安心できるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時など日頃使っておられた物や家族様と本人様の居心地の良い工夫をされている時など互いに会話し少しでも気持ちに沿えるよう支援し安心して頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お風呂やトイレは認識しやすいように明示してある。手すりが必要な所には設置してあり、安全に生活できるように配慮してある。		